

## Python のよくある誤解

Python は日本語の資料が少なく、いろいろと誤解が広まっているようです。気を付けましょう。

Python は教育用言語である

オリジナルの設計者である Guido という人物は Python を開発する以前に、ABC という教育言語の開発に関わっていたことがあるそうです。しかしながら、Python 自体は教育用を念頭に開発されたわけではありません。

Python2 と Python3 はまったくの別言語である

文法に一部非互換がありますが、別の言語というほどでもありません。トリッキーな書き方をしていなければ、自動的に変換できるレベルの非互換です。

Python はプログラミング初心者にはやさしい

Python の文法自体はその通りですが、問題は情報量です。日本語の文献は、他のプログラミング言語に比べるとやや少ないかもしれません。もしあなたが英語を読めるのであれば、まったく問題ありません。

インデントで構造を表現するのが Python の特徴である

インデントによって構造を表現することをオフサイドルールと呼びます。この方式を採用している言語は他にも Haskell や F# などがありますから、Python だけの特徴とは言いがたいです。また Python が初めての例でもありません。

Python 2.x では日本語を正しく扱えない

2.x は str と unicode という2つの文字列が混在していて見通しが悪く、不慣れな書き手が失敗しやすいようです。きちんと書けば日本語を扱えます。日本語が扱えないライブラリが時々あるようですが、これは 3.x でも同様です。

Python 3.x になれば文字コードの問題は全て解決する

むしろ 3.x になってから文字コードのトラブルは増えました。しかし、大部分はバグレベルの話なので徐々に改善していくと思われます。要するにまだ枯れていない部分があるということです。

Python は Google が作った

そのような報道があったことは確かですが、事実ではありません。<http://it.slashdot.jp/story/12/03/28/098240/>

Python の作者が Google に在籍していたことから来る誤解と思われます。Python は Google 在籍以前から作られています。

Python は遅いので計算用には向かない

はい、向きません。

しかし、ほとんど計算だけでできているような作業（例えばハッシュコードを計算するなど）は C 言語で書かれたライブラリを利用できることがほとんどなので、実際はそれほど遅くありません。

Python は、オブジェクト指向言語ではなかった

Python ははじめからオブジェクト指向を念頭に置いて開発されました。self が取って付けたような印象を与えるかもしれませんが、ある程度学べば、むしろ self が文法の一貫性と単純さ生み出し、見通しをよくしていることに気付くでしょう。